

北陸地域に多発する大豆しわ粒の発生防止技術の開発の開発

1 中核機関・研究総括者

(独) 農業・生物系特定産業技術研究機構
中央農業総合研究センター 田淵 公清

2 研究期間

2004～2006 年度 (3 年間)

3 研究目的

北陸産の大豆は上位等級比率が低迷しているが、3 等格付けになる大部分の大豆はしわ粒の混入によるものであり、しわ粒発生による品質の低下に適切な技術的対策を講ずることは重要かつ喫緊の課題となっている。

このため、しわ粒発生防止技術開発に必要となる「ちりめんじわ」、「亀甲じわ」の発生機構を解明する。これらをもとにして、しわ粒発生防止技術を開発し、その有効性を現地で実証する。

4 研究内容及び実施体制

- ① 大豆しわ粒発生機構の解明 ((独) 中央農業総合研究センター、新潟県農業総合研究所、富山県農業技術センター、福井県農業試験場、新潟大学)

しわ粒発生防止技術開発に必要となる「ちりめんじわ」、「亀甲じわ」の発生機構の解明を行う。前者は子実充実阻害ストレスと発生の関係を、後者では作物体の水分条件の変動と発生との関係を解析する。また、優良生産地としわ粒多発地帯の比較に基づくしわ粒発生要因の解明と解明された発生機構の現地検証を行う。

- ② 大豆しわ粒発生防止技術の開発 ((独) 中央農業総合研究センター、新潟県農業総合研究所、富山県農業技術センター、福井県農業試験場)

①で得られた基礎的な知見をもとにして、しわ粒発生防止栽培管理技術の開発、コンバイン収穫に対応したしわ粒発生防止栽培・作業技術体系の開発を行う。開発した技術について現地実証試験を実施し、大豆のしわ粒を抑止する技術を確立する。

5 目標とする成果

大豆しわ粒発生機構の解明とこれに基づく大豆のしわ粒の発生防止技術が確立される。これにより、実需者ニーズに応える高品質大豆の大ロット安定供給が可能となり、北陸産大豆の品質向上により、市場評価が高まり、農家所得の向上が期待される。